

事業実施報告書

スポーツ庁テーマ

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都】

学校名【 京都府立向日が丘支援学校 】

1 実践テーマ	【Ⅲ V】
2 実施対象者	<p>(1)「学校祭 ボッチャを楽しもう」 全校児童生徒157名、保護者・地域からの来校者47名</p> <p>(2)「交流のひろば」 高等部1～3年生66名、高等学校生徒70名の内9名</p>
3 展開の形式	<p>学校における活動</p> <p>(1)「学校祭 ボッチャを楽しもう」</p> <p>① 教科等（体育・・・事前学習 特別活動・・・当日）</p> <p>② 行事名（学校祭）</p> <p>(2)「交流のひろば」</p> <p>①教科等（特別活動）</p> <p>②行事名（交流のひろば）</p> <p>ボッチャのコーナーを設け、本校児童生徒と来校した地域社会や高校生が競技を楽しむとともに交流を行う。</p>
4 目 標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャで交流することを通じて、本校への理解を深め、共生社会の実現に向けた機会とする。 ・スポーツをとおして、様々な人と繋がる喜びを味わう。 ・障害の有無に関わらず、自分の力を精一杯だし、競技をすることで自己肯定感を高める。
5 取組内容	<p>(1)「学校祭 ボッチャを楽しもう」 11月8日(金)実施</p> <p>①事前学習 体育でボッチャに取り組み、ルールを学んだり、ボッチャを楽しむ経験を積んだりした学級が多数あった。</p> <p>②当日 外部団体・トヨタカローラ京都の協力を得て、全校行事の学校祭でボッチャコーナーを計画、実施した。 本校体育館に試合2コート、ボッチャ体験コーナーを設置し、児童生徒だけでなく、保護者や地域からの来校者も参加してボッチャを楽しんだ。 参加者数はのべ200名あり、ランプ(補助具)を使って、障害や年齢に関係なくボッチャを通じて交流ができた。</p> <p>③事後学習 学校祭後にも、体育や特別活動でボッチャに取り組んでスポーツを楽しむ気持ちを継続している。</p>



(2)「交流のひろば」11月23日(土)実施

①事前学習

事前学習で昨年度の交流の様子を動画で視聴し、イメージをもてるようにした。当日と同じ流れでリハーサルを行い、自分の役割を理解し、交流する高校生が楽しめるようにするには、どうしたらいいかを生徒自身が考える支援を指導者が行った。


②当日

「交流及び共同学習」として開催した「交流のひろば」のボッチャコーナーで、本校生徒が司会進行して近隣5校の高等学校生徒とボッチャの試合をした。訪問生もWeb会議システムを介して自宅から本校体育館でのボッチャ開始時に開会宣言を行い、観戦するかたちで参加した。

③事後学習

当日の様子を動画で見た後、感想を述べあったり、指導者からの評価やまとめを聴いたりした。



	
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級以外の人とボッチャをしたり、互いに励まし合ったりして、スポーツの楽しさを味わうことができた。 ・事前学習で、体育等でボッチャを取り入れた学級も多く、スポーツへの興味・関心を高める機会にもなった。 ・補助具を使用して、肢体不自由の児童生徒も試合に参加し、対等に戦えたことは自信を高められた。 ・地域からの来校者や高校生も、支援学校の児童生徒が真剣に試合に取り組む姿勢、がんばっている姿や明るい笑顔に接し、支援学校について理解を深められた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1)「学校祭 ボッチャを楽しもう」</p> <p>事前にトヨタカローラ京都担当者との打ち合わせを丁寧に行い、当日の流れや役割分担、準備について確認したことで、円滑な運営ができた。</p> <p>始めてボッチャを経験する本校児童生徒や保護者、地域の方のために体験コーナーを設置し、参加しやすいようにした。</p> <p>(2)「交流のひろば」</p> <p>生徒が当日の司会や試合の進行をできるように、事前学習を丁寧に行った。</p> <p>ICT 機器を用いて、訪問生も参加できるように工夫した。</p>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャや卓球バレー等の障害者も取り組みやすいスポーツを体育等で行う学級は増えている。活動の範囲を学級だけでなく校内や、地域社会にも広げられるように計画的に年間指導計画に位置づけていく必要がある。 ・パラリンピックの正式種目のボッチャを通じて、オリンピック・パラリンピックへ高まってきた関心を、更に高められるよう指導や働きかけを継続する。
9 来年度以降の実施予定	<p>次年度以降も学校祭や交流のひろばでのスポーツのコーナーは継続したい。</p> <p>日常的な交流ができるような機会の設定も検討する。</p>